

令和4年3月吉日

新潟県介護支援専門員協会
第5ブロック会員 各位

コロナウイルス肺炎について

コロナウイルス肺炎感染が日本国内で発症し、2年が経過しました。介護支援専門員の皆様も日々対応にご苦労され、奔走されている事と思います。日々の活動ご苦労様です。

この度第5ブロックでは、少しでも会員の皆様が情報を得て役立てられるようお願い、コロナウイルスの相談窓口をご担当の最前線で奮闘されている、上越保健所関谷保健師に現状をお聞きし、課題を考え、介護支援専門員としての視点を加え会員の皆様にお知らせいたしたいと思います。

上越保健所医薬予防課 関谷保健師よりご回答いただきました。

Q1 介護事業所関係で寄せられる相談内容はどのようなケースがありますか。

A1 事業所からの事前の相談はほとんどありません。事業所や介護施設でコロナウイルス陽生者が出た時点からの相談がほとんどです。

どの職場も健康観察をしていると思いますが、初発のコロナウイルス陽性者の健康観察・症状をさかのぼっていくと、軽い症状があっても出勤していて後に陽生になり、クラスターが起きてしまっている事が多く見られます。

なかなかぎりぎりの人数で仕事を回していて、軽い症状があっても休めないのかもしれません。日々の仕事も大変だと思います。

介護支援専門員の視点

介護支援専門員や事業所・施設に於いても皆様、軽い症状であっても仕事を休むこと・受診して検査を受けることが早期発見に繋がり、感染者を最小限に出来るのではないかと。

事業所として軽い症状があった場合も互いに受診や休める風土がさらに望ましい。

居宅介護支援事業所で介護支援専門員がコロナウイルス陽性になった場合には、回復するまでは自宅療養か症状によっては入院のため、ケースを事業所内の他のコロナウイルスになっていない介護支援専門員がカバーする場合。

また、居宅介護支援事業所ほぼ全員がコロナウイルス陽性になった場合には、いかに事業所運営をしていくか。万が一の為の提携協力事業所があると安心であり利用者支援にも支障が出ない為にも良い。

(BCP作成の中にも項目あり・事前に提携の書類を交わす必要あり。) 他の事業所に協力してもらった場合には保険者に前もって請求についての確認もしておくと思えます。

Q2 介護施設系ではどのような傾向がありますか。

A2 新潟県内の施設では入所者がコロナウイルス陽性になった場合には、その施設で隔離してケアしていく形をとっています。対応する職員さんも不安の声が上がっています。

オミクロンになってからは感染のスピードが速いです。統計を集計するところまで追いついていません。

上越地域も一定の割合で PCR 検査陽性率が高まって来ています。通所系も、訪問系も職員のコロナウイルス陽性者が増えてきています。引き続き感染予防対策を徹底して行って欲しいと思います。

介護支援専門員の視点

施設での利用者の感染について、施設の介護支援専門員も不安なく業務に当たれるよう施設での感染予防対策の研修や、標準予防策の再確認（正しい手洗い方法やマスクの付け方、必要があればガウン着脱、コロナウイルス陽性の疑いのある利用者の吐物等の片付けかた～床・自分の衣服にかかった場合～等の処理方法等）

そのほか地道な消毒掃除や室内換気等基本的なことをしっかりと行って行く事が必要だと思いました。また日頃食事でしっかりとバランスよく食べる事でコロナウイルスに感染しない身体作りの取り組みも大切だと思います。

不安を抱え込まずに保健所にも相談する事で安心出来、心が軽くなる場合もあります。

介護支援専門員は日頃から利用者宅を訪問しています。同居家族や遠方からの帰省家族にも会います。ご自分も感染しない、人にも感染させないよう互いに気を付けて参りましょう。

濃厚接触者の定義の再確認として

- ・患者と同居している。
- ・患者と手の届く距離で数分間の会話をしたが、互いにマスクを着けていなかった。
- ・患者の身体、または分泌物や排泄物に直接接触し、直後に手指衛生を行わなかった。
- ・換気の悪い閉鎖された空間に患者と 1 時間以上一緒にいた。
- ・集団感染の発生が報告されている同じ場所と時間に 1 時間以上いた。

令和 4 年度第 5 ブロックの活動として、対面での研修会や ZOOM での研修会等もコロナウイルスの状況を見つつ開催したいと考えています。

今年度は開催できませんでしたこと、心よりお詫びいたします。

研修会について等ご意見ありましたら、下記にご連絡いただけますようお願いいたします。

新潟県介護支援専門員協会第 5 ブロック理事

能生包括： 星野貴博 090-2726-4276

やさしい手：林 則子 080-5698-3937